

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

サラウンドの世界を創り出す男



Cadenza

「cadenza(カデンツァ)」という言葉をご存知だろうか？ 音楽演奏の中で、自由に乗ることが許される箇所を「カデンツァ」というのだが、そんな名前のホームシアターのショールームが葉山にある。そこに、三井ホームリモデリング㈱のデザインスタッフ会の勉強会のため訪れた。ホームページも作っていないこのショールームは、葉山のヨットハーバーの、道を隔ててすぐ向かいにあり、ホームシアターに関してなら何でも社長の峰松氏が相談に乗ってくれる。

看板も小さいショールーム、その理由は「これ以上仕事が増えては困ります」とのこと。自由に生きているのが好き、そんな思いで「カデンツァ」という言葉を付け、三〇年勤め上げたサラリーマン生活から飛び出した。ところがホームシアターブームに、第二の人生は会社で籍中以上に忙しそう。ご夫婦二人で家内工業かと思いきや、一〇人ほどの技術者や事務の方々が、みなさんフル回転。再スタートをきって一三年。奥様も「サラリーマン

の妻の時は本当に楽しかったよ。今年に入っている休んだかしら？」と言いながら、実は夫の好きな音楽の世界で、共に過ごせるのが幸せそうだ。

設計士の資格を持つリフォームプランナー達も、刻々と進化する電気関係の知識、特に配線がらみの工事に、時代とともにについていくのは大変だ。オーディオマニアの改装ともなると専門家のコーディネートと二人三脚をしないと難しい。ホームシアターを作る

っていくらかかるのだろう？ サラウンドの映画館と同じ、音が右からも左からも後ろからも聞こえてくる納得の部屋にするには、ざっと二五〇万〜三〇〇万をかける必要があるそうだ。この額は、どんなに余裕のある方でも単体で考えると二の足を踏む。でも新築時やリフォーム時に総額で考えたときには踏み切れるもの。なぜなら、これからの家での暮らし方を考える家づくりをしている時だ

からだろう。大型テレビではなくスクリーンにするなら二〇〇万以上。真っ白な部屋はスクリーンには向かない。ジャズよりクラシックの方が内装下地のクラスワールの入れ方が少ない。寝室ほど、大きなテレビで少し高めにセットするなど、峰松氏の話はつきない。

自宅を兼ねた葉山のショールームは、奥様の微笑みと、おいしいコーヒーを飲みながら友人宅で音楽談話をしているような心地よさがあり、話が弾む。

愛犬を抱えながら語る峰松氏を見ると、日常の暮らしと仕事のマッチした素敵な第二の人生を送っていらっしやると、ちょっと羨ましい気持ちになり、同時にきつとまたこの魅力で訪れてしまっただろうなと感じた。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。昨年より新設した「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。